

「統計教育その第一歩図表描く」

最近よく「統計教育」ということを耳にしたりする。いつたい統計教育とはなんだろう。一口にいえば児童、生徒に統計ということを教育することにある。現代の社会は日進月歩に高度化へと急進しており、統計の利用が増大している反面、統計に対する一般の考え方はいつて低調である。統計教育はこのようなときに、これから社会に巣立つ子供達に統計的なものの見方、考え方を身につけさせ科学的にものごとを処理できる社会人の育成に寄与することにある。統計教育はこれからのものであり、県の図表コンクールも統計教育の一環として行なわれているわけである。

「図表展ちよつと困った大人の手」

図表コンクールは毎年統計教育普及の目的をもつて行われているが、年々出品数もふえて盛大になり本年も250点が出品された。この図表の審査の際、いつでも問題になることは、作品に大人の手が入っていないかと思われるものが相当あることで、審査員の間でも議論百出となり、判定に苦しむことである。こんな作品は大人の展覧会になりかねないとしてポツになるわけだが折角子供達が夏休の貴い時間を一生懸命に描いたものであればちよつとした大人の手が、子供の夢をむざんにも踏みじつてしまふ結果にもなり考えさせられ問題であろう。たとえ下手であつても子供らしい表現で、可愛らしく忠実に基本を守つて描かれたものが尊いのであり、一本の線、一つの字にしても大人の線と、子供の線では違つてくるわけで、表題ぐらゐは構わないだろうという安易な考え方は慎んで反省しなければなるまい

「統計の数字図表による理解」

統計は重要であるということは誰でも一応は知っていることであろう、事実、各方面で各種の統計が広範囲に利用され、活用されているけれど、いざいろいろの数字がギツシリ並んでいる統計表をみると数字に弱いといわれている一般の人にとつて、数の比較が困難で理解されにくいようである。

統計図表は、この点大よその数の比較であり、棒の長さとか線の高低、円の分割の割合などによつて数字の内容の比較を、生れながらに備わつている視覚によつて誰でも容易に判断することができる。むづかしい統計数字の理解に役立つことができる、もちろん大よその数字の比較であるから詳細な数字の比較は困難であつて細い数字は統計表によるわけであつて、一般への統計の理解を深める統計の報告書などはできるだけ図表の挿入によつて数表を見易く、理解させるのに大きい役割を持つてゐるものと考えられる。

「図表描く子の手子の顔汗がしみ」

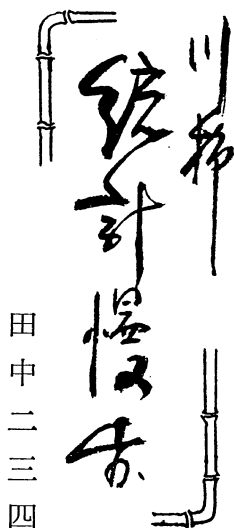
統計図表コンクールには、児童、生徒の夏休を利用して

統計に親しみ、統計の理解を深めるために毎年行つてゐるものであり従つて暑最中に描かれるわけである。

外は炎熱、蟬しぐれ、普通ならば遊びや魚とりにでも出たい年頃であるが、室内での図表作成の仕事は仲々大変な苦勞であろう。小学校の児童の課題は学習の結果を表すものであるため、いろいろ考えて虫を競争させてみたり、天気を調たり、3時に起きて朝顔の開くのを観察したり、交通量を調査するなど子供らしい可愛い図表が多くなるわけである。その結果を数字にまとめいざ作図となると暑さのため汗がポトリ、折角の絵のぐを汗で散らしてしまつたり苦勞は並大抵ではない。幼稚であつても棒が少し曲つてついてもその努力には頭が下る思いである。

「表彰の笑顔をつつむ菊日和」

菊香る好季、県統計大会が開かれ、図表コンクールの入選者も大勢の大人達にまじつて表彰を受ける。努力の結晶が今日の佳き日表彰という光栄に実り、華やかなフラッシュの中を受賞する笑顔、大きな表彰状が幼ない子供の手にあまり、会場に和やかな奮闘気をただよわす。参列の児童、生徒がこの統計の祭典、統計大会をどのような気持ちで迎えるか、きつと幼ない頭の中に統計への認識を深めこの光栄を統計という言葉を通じ、生涯忘れぬものとして脳裏にたたみこんでくれるものと信ずるものである。



田中二三四

(4)

統計の交差点

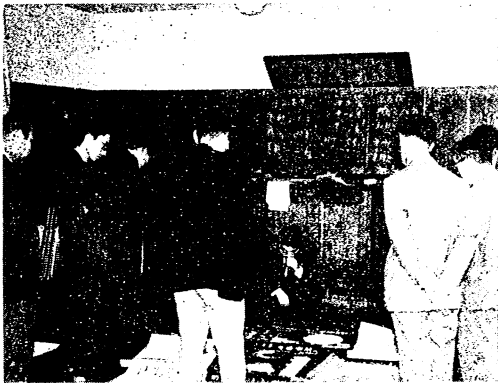
第15回全国統計大会終わる

第15回全国統計大会は去る8月27日、青森市青森市民会館で全国からの参加者2,500人を集めて行なわれました。本県からも県・市町村合せて約36名が参加出席いたしました。この大会は統計関係者の結束と併せて国民の統計思想の普及向上を目的として毎年開かれておりますが、今年は開催地の関係で早目におこなわれたが、大会行事は大内賞授与、統計図表コンクール入賞作品発表、パネル討議、宣言決議、記念講演など例年に変りなく開かれました。

県統計図表コンクール審査

統計の普及向上と統計教育の進展を目的として毎年行なわれている統計図表のコンクールも、今年で15回を重ねるを追うて応募者数も増え、またその内容、質についても向上のほどが一段とみられ、関係者を喜ばせております。今年9月20日募集をメ切つたが246点の応募がありました。ほとんど小中学校の児童生徒で、その審査が県統計館において県・県教育委員会・県統計協会・県統計教育研究部等よりそれぞれ審査委員が出席され慎重に行なわれました。

審査の結果入選者は、1席各部1点、2席各部2点、3席各部3点の決定をみました。入選者についての氏名等については紙面の都合で来月号に掲載予定であります。なお発表は10月6日開かれる県統計大会の席上行なわれます。



図表審査風景

日本統計年鑑の発行

第14回日本統計年鑑の38年版が総理府統計局より発行されました。内容体裁とも前回と同じ、日本統計協会発行B5版・559ページ・2,200円

日本人口地図の刊行

35年国調による日本人口地図についての第3集「市区

町村別人口密度および「人口集中地区分布図」が総理府統計局より刊行された。

市町村統計主管課長会議

去る9月14日水戸市内国保会館において開かれました。県下の市町村統計主管課長が殆んど出席され、開会のことばについて県企画開発部長のあいさつがあり議題について県から説明があり午後3時終了した。

議 題

- (1) 昭和39年度統計業務の大要について
- (2) 1965年中間農業センサスについて
- (3) 国勢調査調査区の設定について
- (4) 昭和40年度の統計関係事業について
- (5) その他



市町村課長会議

工業統計調査ブロック会議

9月8日から10日まで3日間群馬県伊香保町で39年度の方針、計画等について行なわれました。

労働力調査特別調査会議

国民の平常の就業状態に関して、その形態・意識・所得などを調査し、いわゆる不完全就業などの実態を明らかにする、この調査の関東ブロック会議が9月14、15の両日栃木県日光市において開かれました。

地方統計職員研修会

行政管理庁主催の地方統計職員の資質の向上を目的とした研修会が水戸市内県統計館二階で開かれました。この研修会は二回に分けて行なわれ第一回は9月8日から11日まで、第二回目は9月15日から18日までそれぞれ4日間づつ行ない、受講者は64名、講師は行管の奥野定通氏ほか県職員7氏があたり、講習科目は統計関係法規等7科目について行なわれました。

☆近着統計資料案内☆

<不 定 期 刊 行 物>

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
社会・労働					
労働力調査報告	39年上期	総理府統計局	東京の小売商業	37 年	東京商工会議所
受信契約数統計要覧	38 年度	日本放送協会	県民所得推計結果	〃	徳島県統計課
日本国勢図会	38 年	矢野恒太郎記念会	大阪市の市民所得	〃	大阪市総合計画局
家計調査報告	39 年上	総理府統計局	事業所統計調査結果	38 年	島根県統計課
〃	39年6月	〃	県民所得推計報告	37 年	福島県統計課
統計関係法令集	39度9月	文部省調査局	鉱工業生産指数	38 年	和歌山県 〃
経済・財政			個人商工業の実態	37 年	神奈川県 〃
地方財政統計年報	37 年	自治省	事業所統計調査結果報告書	38 年	〃
国税庁統計年報書	37 年版	国 税 庁	本県の県民経済計算	37 年	岩手県 〃
通商産業統計要覧	39 年版	通産大臣官房統計 調査部	工業関係流通実態調査結果 報告書	〃	島根県 〃
法人企業投資実績統計調査 報告	38 年	経済企画庁調査局	果樹農業基本調査結果報告 書	〃	〃
産業・交通			工業統計調査結果報告書	38 年	福島県 〃
工業統計50年史(解説編)		通産大臣官房統計 調査部	市町村民所得	87 年	宮城県 〃
統計年報	38 年	関東電気通信局	本県の経済機構(第3集)		〃 〃
建材統計年報	〃	通産大臣官房統計 調査部	宮城県産業連関表 (別表1~9)	35 年	宮城県 〃
皮革統計年報	〃	〃	工業統計調査結果報告	38 年	滋賀県 〃
ゴム、塩化ビニール統計年 報	〃	〃	房総のすがた	〃	千葉県 〃
日用品統計年報	〃	〃	事務概要	39 年	栃木県 〃
窯業統計年報	〃	〃	生産指数	〃	島根県 〃
機械統計年報	〃	〃	茨城県		
工業用水統計表	37 年	〃	事業概要	39 年版	農 地 部
38年葉たばこ生産統計表	38 年	日本専売公社生産 部	茨城県の農林漁業	39 年刊	農 林 水 産 部
合板統計	39 年 3. 4月	農林省統計調査部	〃 (要約)	〃	〃
植伐面積と苗木生産量等	38 年	〃	農業協同組合の現況	38 年	〃
素材需要量及び素材生産量	〃	〃	37年度学卒者初任給調査結 果	37年7月	県 経 営 者 協 会
推定木炭出産量	4.5.6月	〃	37年度新規学卒者の採用状 況	37年12月	〃
事業概要	39 年	関 東 海 運 局	37年度高中卒予定者の採用 計画調査結果	〃	〃
日本標準商品分類(第1巻)	88 年 8 月改	行 政 管 理 庁	最近の物価問題と賃金・家 計の動向	38年2月	〃
各都道府県			モデル賃金調査結果報告	38年3月	〃
消費者物価指数	39年7年	千葉県統計課	39年4月における初任給の 動向	39年2月	〃
鉱工業生産指数	38 年	新 潟 県 〃	企業経営と賃金	4. 5号	〃
京都市元学区統計要覧	38 年	京 都 市 〃	社 内 報 名 鑑	39年6月	〃
京都府民所得の概要	37 年	〃 〃	茨城県統計書	37 年	茨城県統計課
個人企業の実態	38 年度	群馬県統計課			



人間雑話 (24)

茨城大学教授 塚本勝義

腹を立てるなという人がある。しかし、人間性に立却して考えるなら、およそ無理な注文である。もともと人間は腹を立てるようにできている。できているのだから、立てるのが自然であり必然であり当然である。血がめぐり、息をつくのと同じだ。また、立てずにいられないことも少なくない。立てるべきときに立たないような腹では不甲斐なさ過ぎる。だから、腹を立てるなというのは人間が人間であることを見失ったタワゴトといえる。

そこでわれわれの工夫すべきことは、腹を立てない工夫ではなく、どんな風に立てるか、立てたらその処理をどうすべきかという問題である。つまり、有効な腹の立て方を研究すべきなのだ。

効果的立腹の根本は、真直に立てることだろう。細君をどなりつけたいとき、子供にあたるなんていう立て方はケチである。癩に障るのが細君なら、真向から細君に斬り込むべきだ。道具に向かつて立腹する人もあるが愚の骨頂だ。道具に感覚はない。こわせばこつちの損になるばかり。厭味や皮肉に変質させて吐き出す人もあるが、これも下手だ。反感をそそるだけである。あらゆる場合に真直に立てるのが本筋である。

立腹表現が完了したら、きれいに元に帰るがいい。いつまで睨んでいたり変な咳払いなんかしては甚だまづい。お隣の中国の人が、進むべきときに進み、退くべきときに退くが名将だといっているが、これは戦争の真理であると共に、立腹処理の真理でもある。

腹を立てるべきことに出会ったら大いに立て、立て終わったらさつと引く——これが立腹哲学の原理であろう。立つてる腹を無理に押さえて、変な目付き口付きで皮肉にもならぬ厭味を並べるなんて醜態のきわみだ。一人前の男、一人前の女のやるべきことではない。

○ ○ ○ ○

人間は努めている間は迷うものだ——とゲエテが言っている。努力を(本当の努力)つづける人間の実体を見事に言つてのけた名言だろう。稲作りに熱心な人は、今年の作り方を疑っている。さんま獲りに本気な人は、今度の捕り方に疑いを持つ。豚を飼つてる人も今のやり方に疑いを持つ。サラリーマンだつて変わらない。努力している人なら必ず現在のやり方に迷いがある。自分は父として間違っているのではなかろうかと考える父は、み

んないい父だ。わたしは母として誤っているのではなかろうかと考え込む母もみんないい母だ。本物の努力には批判がつきまとう。批判のあるところに必ず迷いがある。迷いを伴わぬ努力は、頭に来ているノボセと見ていだらう。

○ ○ ○ ○

政治と芸術は対照的な人間活動のようだ。芸術の世界では芸術家の自己満足は、それほど害毒を流さない。下手な画なら誰も見ない。くだらぬ唄なら誰も聞かぬ。ところが政治における政治家の自己満足は甚だ危険である。とんでもない自己満足をやられたら大衆がひどい目に逢う。一人の満足が万人の悲惨ともなりかねない。わかり切つた理屈だが、わかり切つてることほど忘れ易いのも人間の習性だ。ときどき思い出してみる必要がある。

○ ○ ○ ○

親が子を右に行かせようとするとき、子は左に行きたがる。こんな場合、親は子を不心得者とときめたがる。しかし、親の思うがままに動かないからといって、不心得と決めるのは乱暴な判断だ。子の立場からすれば、自分の行きたくない方角に向かわせようとする親こそ不心得者であろう。日本には、まだまだ言うことを聞かない理由だけで子を不心得者にする父母が少なくない。また、かかる軽卒な父母に似た考え方をする人も少なくない。社員が思うように動かぬとき、自分の動かし方、使い方の狂いをたな上げにして、社員の非難ばかりしている社長殿などはその好典型だ。

○ ○ ○ ○

芥川竜之介の〔或阿呆の一生〕を読んでいくと、ところどころに蝶や花にたとえて、うたかたのように消えたいらしい果ない恋の思い出が書かれてあることに気づく。そんな恋人のことなど、研究家もあまり問題にしない。しかし芥川自身にとっては、いずれも重要な恋人であり愛人であつたのであろう。三十六年の生涯を51の短文にしぼつた中に入れておくのだからよほど深い印象となつていたらしい。愛の深さは決して時間の長短に関しないことを痛感させられる。一生苦勞を共にした妻よりも面影を見ただけの初恋の人の方が、ずっと胸にこたえている人もあろう。人生はくだらなくもあり、面白くもある。やはり生きていた方がいいようだ。